

## 「四季」 19 狸

学名 *Nyctereutes procyonoides*

食肉目イヌ科の動物

名前の由来については様々な説があり、はっきりしない。

### 郷土資料から見た「狸<sup>たぬき</sup>」のあれこれ

狸は人を化かす動物として昔話によく登場する、人間との関わりが深い野生動物である。同じく人を化かすと伝えられるキツネに比べ人間に対する警戒心が薄いためか、土蔵や寺院の床下などに棲みついたり、残飯をあさりに人家付近に出没したりする。

ムジナとも呼ばれるが、日本では昔からアナグマと狸を混同することが多く「新潟県鳥獣図鑑」でもホンドタヌキとニホンアナグマ両方の俗名が「ムジナ」とされている。だがアナグマはイタチ科で狸とは科が異なる。

昔話でお馴染みの「狸汁」は狸肉をダイコン・ゴボウなどの野菜と味噌で煮たものだが、ゴボウを入れるのは狸肉の臭いを消すためである。「狸汁」は「眠り始めて二〇日間以上たったタヌキがよいといわれ」「だから狸汁を食べるには一月ころが良からう」（「たべもの語源辞典」）とある。

「アナグマはタヌキにくらべると毛皮は良くないが、肉はおいしい」（「新潟県鳥獣図鑑」）そうである。アナグマと狸の混同を考えると「狸汁」は実は「アナグマ汁」だった場合もあると考えられる。狸、狸汁は冬の季語である。

#### 参考資料

「季寄せ」	大野林火・安住篤編	1977	「世界大博物図鑑」	荒俣宏著	1988
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「新潟県鳥獣図鑑」	新潟日報事業社出版部編	1981
「たべもの語源辞典」	清水桂一編	1980			